

“说”類動詞の用法とコンテキスト

菱沼 透

1. 単語と状況のコンテキスト

1. 1. 単語と辞書

外国語を学ぶ者は辞書を頼りに単語の意味を知ろうとする。辞書は見出し項目として単語などの語彙項目を挙げ解説を行う。解説はまず単語（語彙項目）に対して意味区分を行い、それぞれの語義に対して言い換え（同義的な語を用いての置き換え、または語の組合せによるより詳細な置き換え）によって意味を説明し、対応する文例を加える。

こうした一般の言語辞書のほかに、記述の対象とする語彙項目を基本的な単語に絞り、用法のより詳細な記述を目的とする辞書（基本語辞典、用法辞典など）がある。用法辞典は、意味と文型の対応、形態と構文に関する情報、より多くの文例、同義的な語との比較などの記述が加えられる。文法的な情報と文例は増え解説は全体として詳細になるが、意味区分と意味説明自体は必ずしも一般の辞書を越えることはない。

中国語に関しては、一般的な言語辞書の代表として《現代汉语词典》があり、用法辞典の類には次に挙げるようなものがある。以下、用法辞典の辞書名は括弧内の略称を用いる。

李忆民主编《现代汉语常用词用法词典》（《常用词用法》）

孟琮、郑怀德、孟庆海、蔡文兰编《汉语动词用法词典》（《动词用法》）

吕叔湘主编《现代汉语八百词》（《八百词》）

卢福波《对外汉语常用词语对比例释》（《对比例释》）

《現代漢語詞典》は中国の言語政策の一環として“促進漢語规范化”のために作成されたものである。用法辞典は、全てが“対外漢語”の名称を冠しているわけではないが、いずれも非母語話者の学習に資するという意図を持ち、中国語学習者の有用な学習手段となっている。また、規範辞書、用法辞典とも現代中国語研究の成果を反映したものである。

本稿では、使用頻度の高い動詞の1つ“説”を対象に、上に挙げた辞書を参照しつつ、中国語の非慣習的使用者（学習者）としての立場で、辞書の記述とは異なる観点・角度から観察と解説を試みる。また、“説”と同義的な部分を持つ“說話”“講”“叫”“談”“打招呼”などにも言及する。

単語は見出し項目の中心であり、語彙コードの最も基本的な単位である。語彙コードとしての単語の意味・用法の規則は、その言語社会のメンバーには慣習として蓄えられている。伝達の過程において、慣習的解読者は伝えられたメッセージを自己の語彙コードにより無意識的に解読する。それに対して、非慣習的解読者である学習者は意識的な解読者である。¹⁾ 学習者はメッセージ（言語形式）とそこに含まれる事物や出来事を、辞書に記述された単語の意味説明と文法情報を頼りに解読しようとする。

学習者として辞書に対して感じる問題は、単語についての説明が言語そのものについての説明に偏り、文例（メッセージ）についてもコンテクストに対する配慮に欠ける所が見られる点である。つまり、非言語的な面（状況のコンテクスト）についての情報・説明が少ないことである。「状況のコンテクスト」には、伝達される事象に関する知識、事象と関連する時・所・場面、事象の関与者とその役割や関係、伝達の様式などが含まれる。²⁾ 以下こうした問題点に関して、「状況のコンテクスト」を中心に“説”類の動詞について考えて見たい。

1. 2. 辞書における“说”の解説と問題点

論を進める便宜のために、《现代汉语词典》の“说”の解説を引用しておく。この記述における語義区分と意味説明は、他の辞書においても基本的には踏襲されており、広く評価され承認されたものと言える (“~”は“说”の代替)。

- ①[动] 用话来表达意思：我不会唱歌，只~了个笑话。
- ②[动] 解释：一~就明白。
- ③言论；主张：学~|著书立~|有此一~。
- ④[动] 责备；批评：挨~了|爸爸~了他几句。
- ⑤[动] 指说合；介绍：~婆家。
- ⑥[动] 意思上指：他这段话是~谁呢？

《现代汉语词典》の語義区分と配列順は、“说”の語義間の関係・構造を示していると考えられる。即ち、①は基本的な意味、②~④はその近い変種、⑤は基本的意味から距離のある変種であり、⑥は言葉について注釈を行うために使用するという点で⑤までの意味とは性格が異なる、という関係を示している。意味上①~④が中心にあり、⑤⑥は周辺にある。

用法辞典の類は基本的にこの区分に従うが、周辺的な語義⑤⑥については扱いの異なるものがある。《八百词》は周辺的な⑤⑥の区分を設けず、①②および④についてのみ述べる。《常用词用法》は⑤⑥の順を入れ換え⑤を最後に置き、⑤の説明を“旧时指说合；介绍”と修正している。³⁾

《现代汉语词典》の“说”に関してまず問題になるのは、基本的な語義①の“[动] 用话来表达意思”という説明である。この記述は一般的・抽象的で、意味内容の範囲が広すぎる。この記述は“说”類の動詞に共通する意味特徴であり、“说”類相互の違いを説明できない。⁴⁾

《八百词》はこの点に修正を加え、①を賓語の意味の違いに基づき、a) ~d) の4つに区分している (a 宾语为‘话’或某种性质的话。 b 宾语为语

言、方言。c 宾语指所说的人或事物。d 宾语指所说的内容)。このような下位区分は必要だが、この分類のしかたは賓語という文成分の形式に頼りすぎ、賓語に当てられる語句の形式的な意味に頼りすぎている。

例えば、“c) 宾语指所说的人或事物。”の文例には、“说一个故事。”“说一段相声”(賓語が事物の例)、および“正说着你,你就来了。”(賓語が人の例)などを挙げている。だが前者の“说”は<(物語や漫才を) 語って聞かせる、演じる>意味であり、後者の“说”は<(人や物を) 話題にする>意味である。意味内容だけから考えても、この2つの“说”を1つに括ることは無理がある。

“说一个故事。”と“正说着你,你就来了。”をテキスト(つまり実際の会話の中で使われた文)と考え、言語形式には現れていないその背景(状況のコンテキスト)を推測してみると、いくつかの違いが明らかになる。

“说故事”の“说”の主体は一種の能力を有する人物である。“说故事”という行為の向けられる相手は、<聴衆>であり、主体の演技を享受する人々(<聴衆>は普通複数であると推測される)である。このテキスト(文)の伝達相手は発話時点における対話の聞き手である。

これに対して“说你”の“说”の主体は能力とは関係がない。“说你”の相手は、共に“你”を話題にしていた発話時以前から対話の場にいた聞き手である。テキストの伝達相手は発話時に新たに登場した相手“你”である。

このように考えると、“说故事”と“说你”とは異なる状況における異なる行為であることが明らかになる。この違いは、文の構造と“说”の形に反映する。“说故事”の文には行為の相手<聴衆>を導入できる。その場合、“再给我们说说那个故事。”(《动词用法》)のように介詞“给”を用いる。“说你”の文にも行為の相手を導入できるが、“跟(对)他说”のように介詞は“跟”“对”を用いる。“说故事”の“说”には、“了、着、过”を添加でき重畳も可能だが、“说你”の“说”は“说着”“在说”の形は可能だが、“了”と“过”

は添加できず重畳もできない。また、“说故事”の“说”は“讲”に換えられるが、“说你”の“说”は“讲”との置き換えができない。

“人或事物”という賓語類は、“话”“语言、方言”“所说的内容”などとの対比で立てられた賓語の区分だが、形式的な区分である。賓語の区分、“说”の意味区分は、形式だけでなく意味と状況に関する分析を加える必要がある。

用法辞典の特徴は、適切な例をより多く示し、発話の状況と結びつけて具体的・感覚的に語義の意味・用法の習得を助ける点にある。但し、文例については形式上制約があり、どの辞書も孤立した1文の形で挙げることを原則にしている。この形式は辞書の最大の制約かもしれない。だがこの制約のもとでも、文例はその本来の役割を果たすべきであろう。

用法辞典には学習者にとって分かりにくい文例が見られる。例えば、《常用词用法》が⑤ “[动] 指说合；介绍”の例として挙げる“他那个对象说了一年多了，都快结婚了。”という文。“他那个对象”という名詞句は“说”の主語であろうが、“说”との意味関係がわかりにくい、“说”の動作主体がわかりにくいなどの問題がある。この文例は文としては完結しているが、文の関与者および“说”の動作主体、それらの役割や関係といった、主として人間関係についての状況のコンテキストとして必要な情報が、学習者にはわかりにくいのである。このような文例は必要であるが、背景についての説明が何らかの形で加えられるべきであろう。

1. 3. 単語と状況のコンテキスト

本稿では、単語の意味・用法について、社会言語学（広い意味での）における「状況のコンテキスト」の概念を単語に対して用い、“说”の意味・用法の記述を試みる。状況のコンテキストという概念は本来、テキスト⁵⁾に対して用いるものである。テキストはコンテキストの中で産出され、テキストの意味はコンテキストとの関連で解釈されるという観点から提起されたもので

ある。状況のコンテキストは、テキスト（言語形式）以外に、関与者（発信者、受信者、関連する第3者）、話題と伝達内容、現場の環境（時、所）、チャンネル、社会的背景など多くの非言語的事象（テキストの環境全体）を含む。

状況のコンテキストという概念を、テキストを構成する成分である単語に関して適用した場合、単語の最も直接的なコンテキストはその単語を含む文（テキスト）である。慣習的解読者はテキストを通してその背後にある状況を相当程度推測できるはずである。単語にはまた言語外の状況との関連もあり、それは単語を含むテキストの「状況のコンテキスト」と重なる。但し、単語の観察は単語に焦点を当てて行うのであり、“说”について言えば、テキストを構成する成分としての“说”に対し、テキストとは別個にその関与者および話題などについて観察する必要がある。

以下で、こうしたテキストおよび「状況のコンテキスト」と単語の関係を中心に、“说”類の動詞について考える。“说”に焦点を当てた場合の“说”に関する要素を、テキストに関する用語とは区別し、「発言者（動作主体）、発言相手、発言内容」の語を用いることにする。

言語資料として小説とシナリオ（映画、戯曲、漫才）を用いる。我々はこれらのテキストに直接接触することはできるが、その状況のコンテキストに直接立ち会うことはできない。但し作品全体をテキストと考えた場合、テキストには一般にかなり詳細な状況のコンテキストの記述が含まれる。作品の読者はすべて、作品全体から状況のコンテキストを読み取ることになっている。従って以下の分析において状況のコンテキストは、テキストから読み取り、推測によって実際のコンテキストと考えられるものを構成したものである。

2. 引用行為の“说”

2. 1. 引用の形式

《八百词》は、“说”の語義①の中に“d) 宾语指所说的内容”という下位区分を設けている。これは“说”のいわゆる引用の用法である。本稿では引用という区分を、下位の区分としてではなく、独立の区分として設定する。引用を行う際に使われる動詞は“说”だけではないが、“说”が最も代表的であり、引用の“说”は他の“说”の用法とは異なる特徴を持つからである。

引用とは、発信者がテキストの中に、第3者あるいは発信者・受信者の過去の発話内容を取り入れる行為である。引用の形式、目的はさまざまであるが、ここでは“说”を用いる例について考える。

《八百词》は引用用法の文例として、“我说去，他说不去。”“天气预报说，明天有六七级大风。”などの文例を挙げている。これらをもとに、引用の形式について考える。これらの文を引用テキストと呼ぶと、引用テキストは引用合図部分（“我说”“他说”“天气预报说”）と引用内容（“去”“不去”“明天有六七级大风”）に分かれる。引用合図部分は、主語と動詞“说”で構成される。引用内容は“说”の賓語であり、引用テキストは文の形式をとる。

引用合図部分と引用内容には、文章記号が加えられるのが普通で、「恩格斯说：“劳动创造了人本身。”」のようにコロンと引用記号を用いる形式が模範的とされている。しかし実際には、《八百词》の例のように、文章記号の使い方はさまざまである。⁶⁾

引用内容は、もとの発話に内容・形式とも忠実な直接引用と、引用する者の整理・改変を加えられた間接引用とがある。この点は文章記号の使い方とも関連がある。「恩格斯说：“劳动创造了人本身。”」のような形式は、直接引用と考えられる。

引用行為のコンテキストについて考えると、まず引用者（発信者）と、引用内容を伝達する相手とが存在する。引用の中心は引用内容を提示すること

だが、その出所を示す必要がある。出所は引用テキスト（文）の主語として示される。

出所は2種類に分けられる。1つは、“我说去，他说不去。”の“我”“他”のようなテキストの関与者である。もう1つは、“天气预报”のような人間以外の物（書物、手紙、メモ、諺、うわさなどが含まれる）、および関与者ではない人間（エンゲルス、荘子など）である（これらの出所を併せて非関与者とする）。引用の“说”は人間以外のものを主語とする点に特徴の1つがある。以下、出所の違いをもとに述べる。

2. 2. 非関与者からの引用

2. 2. 1. 文章における引用——“说”類の動詞を用いる例

まず、文章における引用のうち非関与者からの引用について考える。次の例は学術論文中における引用で、引用者が自身の論旨の展開のための根拠・材料を示したり、論の補強のために行っている。引用合図部分の動詞には“说”のほか、“指出”“认为”“是”などが使われる（コロンだけの場合もある）が、“讲”は使われない。引用内容は原典からの直接の引用である。

- (01) 因“砚”形似田，古代文人喜欢把砚比喻作“田”，苏东坡说：“我生无田，食破砚。”（汉语与中国文化）
 - (02) 人类辨物取名是人类创造文明史的第一步。老子说过“无名万物之始，有名万物之母。”（汉语与中国文化）
 - (03) 道教认为：人修行方术超脱人世后即具备了神通变化的能力，可长生不死，成为“仙”人。《释名·释长幼》说：老而不死曰仙。仙，迁也，迁入山也。（中国传统文化和语言）
 - (04) 俗语说：“千里不同风，百里不同俗。”我国地广人多，方言迥异，各地不同风俗习惯往往跟当地语言联系在一起。（汉语与中国文化）
- “说”の主語は、人の場合と書物（出典）の場合がある。引用の“说”の

主語は、人の場合を含めて、意味上は出所と見るべきであろう。引用内容は過去のものであるが、“说”は普通“说”のままで用い、“说了”“说过”の形を用いる例は少ない。(02)の“老子说过”という形は、非関与者からの引用としては珍しい例である。伝達相手は示さないのが一般的である。「毛主席教导我们：“帝国主义者如此欺负我们，这是需要认真对付的。”」のような伝達相手を引用合図部分に加える形は少ない。

2. 2. 2. 文章における引用——“写”類の動詞を用いる例

小説において、引用者が論旨の補強や根拠を示すためではなく、出来事の展開のために必要な情報を提示する目的で行う引用がある。次のテキストはある小説の終結部分である。ここに現れる引用は、小説を完成させるために必要な情報を作者が読者に提示することを目的としている。引用部分の動詞には、“写(着)”“是”が用いられている(コロンだけのものもある)。

この例も広い意味で引用(直接引用)と考えてよいと思うが、これまで見た例とは引用テキストの構造が違い、“写(着)”を“说”に換えることはできない。換えることが可能なのは、“写道”“记载”などの“写”類の動詞である。

(05) 马局长一行来到东山坡父亲的墓地，～～～，及至走近，才看清花圈上的挽联，一个上面写着：人走音容在，身去功勋存。落款：小山村村委会。另一个花圈的挽联是：吃水不忘挖井人，接班自有后来人。落款：小山村小学全体师生。

马局长望着眼前的花圈，肃立在父亲的墓前垂首志哀。马局长心里一阵愧疚。此时，他才突然省悟，为什么乡亲们对他那么冷淡。(小说《扫墓》)

引用内容は墓前の花輪に添えられた挽聯の言葉である。テキストの内容および引用の内容から見て、この引用は挽聯に書かれた言葉すべての忠実な直

接の引用であると考えられる。これは引用テキストの文の形式とも関係がある。以下の例も同様の引用例である。

(06) 一天回家，看到门上有一张纸条，上面写着：“上月电费，一共 15.5 元。隔壁。”（小小说《隔壁的纸条》）

(07) 不久，康伟业收到了戴晓蕾的一张神秘纸条，纸条上写道：这个星期四晚上院里开重要大会，我要去你家看看那扇玻璃窗。（来来往往）

(08) 家乡的县志上这样记载：1940 年夏，周长安在战斗中格杀日军少尉一名。（小小说《二舅抗日》）

これらの引用も引用合図部分と引用内容からなる文の形で行われている。“一个上面写着：人走音容在，身去功勋存。”の形はいわゆる現象文（存在文）の形式である。また、引用内容を表す賓語は発信者・受信者にとって新情報と考えられる。従って、この文は意味的にも現象文（存在文）と認められる。但しコロンが用いられる点は一般の現象文と異なる。

引用部分が文ではなく語の場合もある。この場合、コロンは使われない。

(09) 他身为马绍尔公民，为美国一家公司做中国代办，名片上写着总经理，基本年薪二十万美金。（来来往往）

これも現象文であり、引用合図部分に“写”類の動詞を用いた文はすべて現象文と考えられる。

2. 2. 3. 会話における引用

一般の会話においても、基本的には上の場合と同様の形式で引用が行われる。出所は歴史上の人物や書物のほか、新聞、手紙、メモなどがある。“说”を“听××说”の形で用いることがある (16)。

会話においては、諺およびうわさの引用も多い。諺からの引用には、“俗话说”と“人们说”の2つの形式がある。引用の“说”の主語は単数が普通であり、複数の人である場合は複数の人間が意味上同じことを言う状況に限

定される。複数主語“人们说”は諺の引用形式の特徴である（「〜〜〜」は省略したことを示す）。

(10) 贺先生说：“陶陶，我也该走了，我的肝癌居然拖过了这么多年，实为奇迹。庄子说，生为附赘悬疣，死为决疣溃痂。我现在把该做的事做完了，〜〜〜”（小小说《逍遥游》）

(11) 咱乡俗话说，金花配银花，西葫芦配瓜。咱两个没文化，正能合在一块哩！（人生）

(12) 人们时常说，女过三十豆腐渣，难道自己就掉价到了这样的份儿上？
（小小说《相亲》）

以上の引用の意図・目的は文章における引用（“说”類の動詞を用いる例）と同じで、引用者が自身の論旨の補強のために行っている。一方、会話においても引用者が話題や情報を提示するために行う引用は多い。

(13) 哎，老许，你看，报上说有个小女孩得了白血病，看病要花好几万，社会上好多人都在为她捐钱呢。（说汉语谈文化）

(14) 他摇摇头，“本来，你和克南好好的，可是……噢，前天我刚收到老战友的信，说南京那里已经给克南联系工作单位了……”（人生）

(15) 康的妮高兴得抱着康伟业亲了几口，突然发现她母亲不在，这马上就成了最重要的问题，“妈妈呢？她给我留条说去你公司了。”（来来往往）

(16) 现在听地方上来函说，初步决定安排让我在地区专署当劳动局长。（人生）

うわさの引用は、話題・情報の提示のために行われる。うわさの出所は不明であり特定できない。そのため引用合図部分には“谁说”“有人说”および“听说”“据说”などの形が用いられる。また、“消息”を主語とする“有消息”の形式もある。うわさの引用内容は間接の引用である。

(17) 她记得谁说过，男人之间的话题很多，但概括起来无非三个：金钱、战争和女人。（小小说）

- (18) 有人说他拾了个金表，有人说他白弄了三百块大洋，那自信知道得最详细的才点着头说，他从西山拉回三十匹骆驼！（骆驼祥子）
- (19) 这个星期天，又有人要给连长介绍对象。听说是个护士，而且还要到连队来。（小小说《嫂子》）
- (20) 李大夫是这个大型肉类联合加工厂两千多职工里最矜持最清高最有文化的人，皮肤白得像奶油雪糕。据说她的年龄将近五十，这一点就是杀了康伟业他也不相信。（来来往往）
- (21) 他终于从围墙溜出去，偷了农民的两根黄瓜。他当场就被逮住了……有消息说，星期五就开师生大会，宣布开除胡志安的决定。他的学生生涯还有不到三天。（小小说《火灾》）
- (22) 后来有消息说林珠去了澳大利亚，也有消息说林珠去了美国，总之她大约是离开中国了。（来来往往）

2. 3. 関与者からの引用

2. 3. 1. 間接引用

対話において引用を行う者が関与者である特定の人物（話し手や聞き手および第3者）の過去の発言を引用する場合がある。この場合、引用合図部分は引用内容の発言者を主語として、“××说”および“听××说”の形が用いられる。この引用テキストは、発言者の過去の発言内容の確認の意味合いが強い場合には、“说”は“说过”“说了”の形を取る。また、引用内容は過去の会話における発言であるから、引用内容の形式はそのままの直接の引用ではなく、引用者によって改変・整理された間接的な引用である。

- (23) 我说过你以后别来找我们家玉英，怎么又来了？（常用词）
- (24) 阿眉蛮厉害地打断我，“我什么时候说过嫌你，不要你了？（空中小姐）
- (25) 娃，你说，长大后干什么？皮大说，你说了，要我当村主任呢。（小

小说《皮狗》)

(26) 我记得你说过不锻炼的人也能活到九十九，好像你对锻炼不感兴趣的嘛。(说说)

(27) 局长是说了请他去坐。可是，去哪里坐？(说说)

(28) 他想了会儿：“我们早就回来了，听老程说，你在——对，人和厂。高妈还去找了你一趟，没找到。坐下！你怎样？事情好不好？”(骆驼祥子)

この種の特定の人物の引用には“说是”が挿入句的に使われることがある。この場合、“说”の発言主体は文脈前方に示される。同じく慣用的な引用合図の動詞“听说”“据说”は、“说是”と異なり出所を明かさない場合に使われる。

(29) 餐馆是段莉娜选的，说是一家既有档次味道又好还很便宜的餐馆。(来来往往)

(30) 走了不多时候，阿五又将孩子还给他，说是昨天与朋友约定的吃饭时候到了；单四嫂子便接了孩子。(呐喊)

(31) 我们那时候不知道谈些什么，只记得闰土很高兴，说是上城之后，见了许多没有见过的东西。(呐喊)

関与者の発言の引用には、“说”に換えて“讲”を用いることができる。但し、“对(跟)××讲”の形で引用伝達相手を明示して使うのが普通である。

(32) 过了年，她无论如何也不准祥子在晚间出去，她不定哪时就生养，她害怕。这时候，她才想起自己的实在岁数来，虽然还不肯明说，可是再也不对他讲，“我只比你大‘一点’了”。(骆驼祥子)

(33) 好朋友！你知道吗？她准备给你写信的。她是那么激动地对我讲过想向你倾诉的话，不是一句，而是很多很多。(空中小姐)

2. 3. 2. 対話内容の引用

小説で対話の場面が描かれる場合、対話の内容は“××说”“××道”“××问（回答）”などの形を用い、直接引用の形で引用される。このときの“××说”の部分は、これまで述べた引用とは異なり、引用内容のあとに置かれることもあるので、1つの文の中の引用合図部分ではなく、独立した文と考えられる。

この用法の“说”は、“了、着、过”を添加しない。場面が発話時点に設定されているからであろう。また、文脈により発言者が明らかな場合には“××说”が省略され、引用内容のみを示すことがある。これらの“说”も“讲”に換えることはできない。

(34) “一代不如一代!” 九斤老太说。

七斤慢慢地抬起头来，叹了一口气说，“皇帝坐了龙庭了。”

七斤嫂呆了一刻，忽而恍然大悟的道，“这可好了，这不是又要皇恩大赦了么!”

七斤又叹了一口气，说，“我没有辫子。”

“皇帝要辫子么？”

“皇帝要辫子。”

“你怎么知道呢？”七斤嫂有些着急，赶忙的问。

“咸亨酒店里的人，都说要的。”（呐喊）

3. 注釈

3. 1. 注釈

《现代汉语词典》の語義区分で最後に置かれた“说”「⑥[动] 意思上指：他这段话是说谁呢？」の意味上の特徴は、動作の側面が捨象されている点にある。この点は、非関与者からの引用合図に使う“说”と共通する。

この“说”についての文法解説と文例は、用法辞典の間に相当程度違いが

見られる。《常用词用法》は、「必带名词、代词宾语。不能带“了”、“着”、“过”。不能带补语。不能重叠。」と説明し、“我没说你，我说的是那个不讲理的人。”の類の文例を挙げる。これに対して《动词用法》は、賓語は〔动宾〕〔形宾〕〔小句宾〕であるとし、“他的意思是说不再派代表队参加比赛了。”のような例を挙げる。

“说你”と“意思是说”の“说”は、用いる状況と意味に違いがある。前者は何が話題かを述べるための表現で、〈話題は何々だ〉と説明する意味である。後者はある発言に対して注釈・解説を加える場合の表現で、〈その発言の意味は何々だ〉と説明する意味である。但し、話題と発言内容という説明の対象は異なるが、それらについての注釈・説明を加えるという点、および動作の側面を捨象している点は共通する。この章では、“说”を用いて行う注釈という行為について考察する。この“说”はメタ言語機能に基づく用法である。

3. 2. 言い換えによる注釈

まず、発信者が自分あるいは他者の発言内容について、その意味内容の説明・解釈を行う例について考えてみる。“说”は“就是说”“也可以说”などの表現形式の中で使われ、“说”の形は常に“说”である。説明の対象とする発言内容は、これら注釈表現の文脈前方に存在していなければならない。説明の対象が“说”の主語であり、“说”の主体（説明を行う主体）はテキストの発信者である。これら“说”を含む表現は注釈開始の合図の役割を持ち、そのうしろに言い換えによる注釈が賓語として続く。

(35) 祥子，在与“骆驼”这个外号发生关系以前，是个较比有自由的洋车夫，这就是说，他是属于年轻力壮，而且自己有车的那一类：自己的车，自己的生活，都在自己手里，高等车夫。（骆驼祥子）

(36) 他一路上热血沸腾。他性格中有一种冒险精神——也可以说是英雄主

义品格。这种精神在无聊的斗殴中显示是可悲的，但遇到这样的情况，却显得很可贵了。(人生)

3. 3. 話題についての注釈

3. 3. 1. 話題の特定

“他这段话是说谁呢？”の“说”は、発話の話題を特定するために用いている。動作的な面はまったくなく、“了、着、过”を添加することがない。“我说他。”のような文の場合、「④ [动] 责备；批评」の“说”と区別がつかないが、文脈に“他这段话”に相当する内容があれば問題なく話題特定の“说”と判別できる。

(37) 这“假洋鬼子”近来了。“秃儿，驴……”不料这秃儿却拿着一支棍子大踏步走了过来。阿Q在这刹那，便知道大约要打了，赶紧抽紧筋骨，耸了肩膀等候着，果然，拍的一声，似乎确凿打在自己头上了。

“我说他！”阿Q指着近旁的一个孩子，分辩说。(呐喊)

この“说”と同じ用法は、他の発言を表す動詞にも見られる。

(38) 阿Q“这毛虫！”王胡“你骂谁？”

3. 3. 2. 話題として語る行為

“正说着你，你就来了。”“我们在说老陈，没说你。”(《八百词》)の“说”は、上に述べた“说”とは異なる点がある。この“说”は話題を特定すると同時に、〈ある話題について語る〉という発言行為を指している。そのため、“说着”“在说”の形で使うことも多く、趨向動詞“起”と組合わせて使うことも多い。“说”の発言者が主語となり、それは複数であってもよい。特定された話題が賓語となり、“说”の発言相手は示さないのが普通である。次の4例中の“说”は“提”に置き換えることが可能である。

(39) 他们刚刚还说起你的处境呢。(动词用法)

(40) 说起这事儿，我还有意见呢！（八百词）

(41) 怎么又说起这件事来了？（八百词）

(42) “伯母，我姓宋，是小张的同事。”“噢，是小宋啊，我听宁宁说起过。来，快坐。宁宁啊，有客人来了。”（说汉语谈文化）

次のテキストは、小説《骆驼祥子》の冒頭部分である。このテキストには、作者が“我们”という形で直接登場し、“说”の発言者となっている。受信者（発言相手）は読者である。

(43) 我们所要介绍的是祥子，不是骆驼，因为“骆驼”只是个外号；那么，我们就先说祥子，随手儿把骆驼与祥子那点关系说过去，也就算了。
（骆驼祥子）

このテキストは“说”を2度用いて2つの話題を示し、話題提示の順序、物語展開の手順を説明している。“（说）过去”は話題の移動を示す。

発言内容（賓語または介詞“把”で示されたもの）は取り上げる話題であり、物語の内容ではない。この“说”の意味は、〈ある事柄を語る〉（事柄の内容の叙述）ではなく、上の例と同じく〈ある話題について語る〉である。

発言内容に関する話題と物語内容に違いは、文の言語形式に反映する。話題の“说”は発言相手を文に表現しないが、物語内容の“说”は発言相手（聞き手）を“对”“跟”を用いて示すことがあり、数量詞を加えることがある。

(44) 祥子立起来：“睡觉去。送给你老人家一包洋火！”他放在桌子上一包火柴，又楞了楞：“不用对别人说，骆驼的事！”（骆驼祥子）

(45) 刘四爷用眉毛梢儿问了句，“哪儿来的？”祥子一边吃，一边把被兵拉去的事说了一遍。（骆驼祥子）

4. 発言行為

4. 1. “说”の動作的側面

“说”の引用と注釈の用法は、言語コミュニケーションの中における使用であり、動作の側面が問題にされない場合がある。しかし“说”には口を開いて言葉を発するという動作・過程の側面があり、この面は歩く、食べる、寝るなどコミュニケーション行動以外の行動（実質行動）と関連がある。⁷⁾

次の文中の“说”は、人が言葉を発するという動作のみを表現している。この用法における“说”は、“听”“吃”など他の動作動詞と対比的に用いられる。

(46) 咱们一边吃着，一边说着。（常用词）

(47) 一聊，几个小时过去了。不过，几乎都是他在说，她在听。（小小说《夜色温馨》）

このように“说”を動作の側面に限って使用する場合は、“说”に“了、着、过”を添加することもあるし、複数の動作主体（主語）が交互に“说”という動作を行うことを表すこともある。

“说”の動作の側面は、引用の機能と対立しない。次の例のように、引用の機能と動作・過程の側面が同時に表現される場合も普通に見られる。

(48) 她进门就大大方方地说了一声：“嗨，康总，谢谢你请我吃饭。”说话的同时她向康伟业绽开了自己青春的笑容。（来来往往）

この章では、“说”の動作・過程の側面（発言行為）について観察する。

4. 2. “说”の使用環境——接近と点火

次のテキストは対話がどのように成立するかという状況を示す例である。対話の成立には少なくとも2人の人間の存在が必要だが、この2人の中には対話発生以前に、一定の関係が必要である。それは双方が接近し、対話可能な位置関係にあるという非言語行動上の物理的環境（状況）である。従って対話場面の描写には、その前段階として、接近という位置関係に関する描写

を伴うことが多い。接近のあとに、一方が他方に声をかける行為（対話の点火）⁸⁾が行われる。点火ののち、両者の間に「話し手」と「聞き手」という関係が生じる。

- (49) 有一日局长终于从人缝中发现老安了。局长将手中的包交给秘书，拨开那些包围他的手下，走下门厅的台阶，站在老安的面前，主动地朝老安伸出手来，握住，亲切地说，老安，怎么总是看不到你呀。
老安忙说，这不是看到啦？（说说）

声かけを表す動詞には“说”と“问”が最も多く使われ、“说”は“问”に代えることも可能である。応答を表す動詞には“说”と“(回)答”が最もよく使われ、“说”はこの場合も“(回)答”に代えることが可能である。“说”は「聞く」「答える」という対話展開上の発言者の役割に関して中立的である。

声かけの動詞の選択には、双方の位置関係、社会的関係、発言内容などの要素が関係する。双方が対面の状態になく距離を置いている場合、“喊”“叫”などが使われ、“说”は使われない。知己どうしが接近しあいさつする場合には“(打)招呼”“喊”“叫”が使われる。呼称によって呼びかける場合も“喊”“叫”が用いられる。

- (50) 每到黄昏，小街上会出现一对老人相拥的身影。有人喊，秦皮，喝酒。
秦皮转身微笑，说，谢了。（小小说）

- (51) 康伟业在排队的时候站在了厂医李大夫的后面，他主动打了一声招呼：
“李大夫吃饭。”李大夫回头说：“小康吃饭。”（来来往往）

- (52) 有一天，汤文宾在院子里扫地，魏得富在他身后恭恭敬敬叫了声：“汤老师，扫地呢？”“局长见笑了！”汤文宾不紧不慢地答。（小小说）

辞書は“讲”の意味を“说”の置き換えで説明する。引用に関して言えば、“讲”にも引用合図の用法はあり、“说”同様、発言内容の直接の引用にも間接の引用にも使用できる。

- (53) 我跟阿眉讲：“过去，我才叫在英雄沿儿上呢。大炮一开，就是功臣，

可惜！现在这太平年月不出英雄。”“你怎么知道不出？”她不忿地问。（空中小姐）

(54) 我跟她讲，这样吊着不好，要不，就跟小沈谈清。她不肯去。（空中小姐）

しかし、対話開始の声かけの表現に“讲”が用いられることはない。

“说”は状況によって発言相手を示す表現“对（跟、向）××说”の形とともに使用することもできるし、これらを伴わないで使用することも可能である。しかし“讲”は一般に発言相手を示す形とともに用いられる。⁹⁾

“说”“讲”“叫”“喊”“招呼”に動作の面で共通するのは、発言者が発言相手に対して一方的に行う行為であるという点である。これらの動詞は一方が声をかけ相手がそれに答えるという対話進行の過程を含まず、一方が他方に対して発言するという行為のみに対応している。そういう意味でこれらの動詞を単方向動詞とすることができる。この点でこれらの動詞は“说话”“谈”“交谈”“聊”など相互の発言を含める対話行為に対応する相互動詞と区別しなければならない。¹⁰⁾

4. 3. 叱責と演技

“我进屋时，爸爸正说着妹妹。”のように、“说”には叱責という行為を表す用法がある。この“说”は人を賓語とする点で、話題の人物を特定する注釈用法の“说”と同じ形をとり、“我说他。”はこの文を孤立的に見れば両義的である。しかし注釈用法の“说”は“了、着、过”を加えることも重畳もできないが、叱責用法はいずれも可能である（“我已经说过他了。”“爷爷正说着小明呢。”“你应该狠狠地说说他。”）。

また一般に、叱責行為か注釈行為かは文脈によって明らかであり紛れが生じることはない。叱責行為の場合、“说”の発言者は叱責者であり、賓語の被叱責者との間で、年齢や社会的関係において叱責者が上位の関係にある。ま

た、叱責者は社会一般の人々の場合もある。

- (55) “你是不是因为革命友谊蜕化成儿女私情，有点转不过弯来？”到底是老朋友，一箭中的，“告诉你，这是合理的结果，没人说你。你是老百姓，这是生活的重要内容之一。是正当的，无罪的。连我也在勾搭女同事呢。”（空中小姐）

“说话”“说事”を叱責の“说”と同義に用いることがある。この場合、“说话”“说事”はそのままの形で用い、賓語を取ることではない。

- (56) 他这样不坚持原则，群众要说话的。（常用词）

- (57) 乡长急急忙忙跑来对芹说，三天内要把全村的羊处理完，一只也不能留。三天后若发现一只喘气的羊，拿村主任芹说事。（小小说《芹》）

“说”は“话”との組み合わせで、“说实话”“说空话”“说大话”“说真心话”“说漂亮话”などの慣用的表現がある。これらの表現では、“说”の賓語は発言内容を表す。これら慣用表現と“说外语”“说普通话”および“说故事”“说相声”など表現には、賓語の意味に基づく違いがある。

“说外语”の類における“说”は、言語の種類（外国語、共通語、方言など）を賓語とし、発言者（主語）にその言語を話す能力があることを表す。

“说”はしばしば“会”とともに用いる。

- (58) 气长也还算小事，一般车夫万不能争这项生意的原因，大半还是因为这些吃洋饭的有点与众不同的知识，他们会说外国话。英国兵，法国兵，所说的万寿山，雍和宫，“八大胡同”，他们都晓得。（骆驼祥子）

- (59) 你说说法语，让我们听听。（常用词）

この“说”に対しては“讲”を換えて用いることが可能である（他讲英语讲得特别好。）。

“我不会唱歌，只说了个笑话。”の“说”も能力と関係があり、＜私は歌は下手だが、笑い話をするにはできる＞という意味も含んでいる。賓語が“故事”“相声”“评书”など、口頭による演芸類である場合、“说”はそれら演芸

を行う能力があることを表す。この場合も基本的には“讲”で“说”に換えることができる（玉敏讲了一个笑话，大家笑得直流泪。）。但し、“说书”“说评书”など、ジャンルによっては“讲”が不可の場合もある。“说”と“唱”の使い分けもジャンルの相違が根拠になっている。

この種の文に発言相手を導入する場合には、“再给我们说说那个故事。”のように、介詞“给”によって示す。介詞“给”は、発言者と発言相手との役割・関係に対応するものである。

4. 4. 相談、約束

“说”は叱責・能力に関する言語行為を表現する場合は、単方向動詞である。これに対し、話し合う、相談する、約束するなどの行動に関して使用する場合は、“说”は相互動詞として使用される。

(60) “有事吗？”祥子又要去按电铃。“自然是有事，并且是要紧的事！咱们进去说好不好！”孙排长——现在是侦探——伸手按了铃。（骆驼祥子）

この例のように、“说”が単独で相互動詞として使用される例はあまり多くなく、多くの場合、“说话”あるいは特定の補語を伴って“动趋式”“动结式”の形で使用される。この形式には、“说好”“说定”“说下”“说得来”“说不来”などがある。

(61) 在火车上，和新交的朋友说了半天话。（常用词用法）

(62) 原来两个人说好的，退休以后，他们一起出去旅游。（小小说《奶奶妈妈》）

(63) 咱们俩先说下，我有事你来帮忙。（动词用法）

(64) 顾八奶奶，好，就这么说定了，在银行那笔款子，我就替你调派了。

（日出）

(65) 曹先生是个社会主义者，阮明的思想更激烈，所以二人很说得来。（骆

駝祥子)

“说”の動作主体は当然複数の人物である。主体が主語の位置に置かれれば、その文は理解しやすい。主語が省略されたり、“事情就这样说定了。”のように主体以外のものが主語となる場合は理解しにくくなる。これらの“说”は“谈”“商量”などと同義である。

5. “说”と社会・文化的背景

5. 1. 仲介と調停

叱る・約束するという行為は、基本的に2者間の行為である。“说”を用いてこれらの行為を表現する場合、“说”の関与者は叱る者と叱られる者、約束を交わす者どうしである。これに対して、仲介・調停の行為は3者間の行為である。解決すべき問題を抱えた者(問題当事者)がいて、問題を解決できる人物(解決者)が存在し、その間に立って調停者が当事者のために問題の解決を解決者に働きかける。問題解決者は一般に社会的に上位の人物である。

こうした仲介・調停の行為を表現するために、“说”が使われることがある。この“说”は、《现代汉语词典》の区分に当てはめると、「⑤ [动] 指说合; 介绍」に該当する。また、この“说”の同義語には“说情”“求情”“讲清”“求(帮忙)”“求情”などがある。

彭见明の小説に《说说》という短篇がある。この小説は次のテキストで始まる。

(66) 老安打算去说说儿子的事。

老伴催过老安好几遍了，你什么时候去说说儿子的事？老安不以为老伴这是唠叨，老伴不是个爱唠叨的人，老伴的催促有道理。(说说)

小説全体の内容から、次のような状況を知ることができる。退職した老安には一人息子がおり、自分が退職した職場で働いている。職場では組織改革

が行われようとしており、職員の何人かは辺鄙な現場に移される可能性がある。職場の局長は老安の元の部下、その関係を利用して老安は異動の対象から息子をはずすよう頼みに行こうとする。

このテキストの中の“说说”は、仲介・調停の“说”、“说情”の“说”である。小説には“说情”という語も使われている（老安晓得儿子是不会央他去帮他说情的）。この“说”の関与者（3者）は調停者老安、当事者はその息子、解決者はこのテキストには現れていないが、局長（調停者の元部下）である。こうした関係を持つ関与者すべてを1つの文に示すことは普通無理があり、ある程度の文脈が必要である。この小説はこうした人間関係と息子の抱える問題を徐々に示すことが技法の1つになっている。

次のテキストは比較的簡潔に、動詞に“求（帮忙）”を用いて“说情”の例を述べている。当事者は段莉娜、仲介者は康伟业、2人は夫婦である。問題解決者は、市の指導者で、康伟业はその市で成功した企業家である。

(67) 段莉娜哪里受过这样的委屈，把办公室的几块玻璃板全砸了，保卫科气得不得了，一定要把段莉娜送到派出所去。后来康伟业不得不去求市里有关领导帮个忙，领导亲自出面说情，段莉娜才得以顺利回家。
（来来往往）

“说”の動作主体は調停者である。(5a)の“老安打算去说说儿子的事。”は動作主体を主語としており、その点で文の意味は理解しやすいはずだが、困難を感じるのは背景にある人間関係や問題などの状況のコンテキストに含まれる要素が複雑なためである。

こうした要素は文の中で、いくつかの形式・成分として表現される。解決を要する問題は“说”の賓語になることが多いが、介詞“为”“给”を用いて示すこともできる。また、主語としても示すことができる（儿子的事是要说一说的）。

次のテキストでは、“说好话”“美言”という動詞（句）を用い、問題当事

者を主語としている。

- (68) 黄胖子 （揉揉眼）谁呀？
 松二爷 我！松二！您过来，给说句好话！
 黄胖子 （看清）哟，宋爷，吴爷，二位爷办案哪？请吧！
 松二爷 黄爷，帮帮忙，给美言两句！ （茶馆）
- (69) 王利发 您等等！我这儿千真万确还没开张，这您知道！开张以后，还得多麻烦您呢！得啦，您买包茶叶喝吧！（递钞票）您多给美言几句，我感恩不尽！
- 巡警 （接票子）我给你说说看，行不行可不保准！ （茶馆）

仲介・調停の“说”には同義語が多い。この“说”の意味の言い換え説明としては、“说合”を用いるよりも“说情”“说好话”などのほうがより適切であろう。

人間関係を利用した仲介・調停という行為は社会で広く行われている。同義語が多いのはそうした社会状況の反映でもあるだろう。仲介・調停の“说”の理解にはこのような社会背景についての知識が関係している。

5. 2. 結婚の仲介

結婚の成立には仲人が必要で、仲人は夫あるいは妻になるべき男女（あるいはその家）の仲介をする。“说”がこの仲人の仲介工作を表すことがある。この行為の関与者は結婚当事者である夫候補者と妻候補者、およびその仲介者の仲人であり、仲人が動作主体である。

《现代汉语词典》の「⑤ [动] 指说合；介绍」は、主としてこの仲人の行為を想定しているものであろう。用法辞典もこの意味区分に対応する文例には結婚に関するもののみを挙げている。

《常用词用法》は十の例を挙げるが、全て結婚に関するものである¹¹⁾。動作主体の仲人を主語としたものは比較的分かりやすい。例えば“张大婶儿过

去给不少人说过媒。”“她给我说过几次媒，但都没成。”などがそうであるが、しかし主語自体に仲人であることを示す特徴はない。この“说”には“我给他女儿说了个婆家。”“她又给人家说起亲来了。”の“说婆家”“说亲”および“说媒”など特定の賓語との慣用的結合がある。《动词用法》はほかに“媳妇”“女婿”を挙げている。これらの賓語は“说”および文の意味の理解を助けるが、動詞と賓語の論理的な意味関係が分かりにくく、表面的な動詞・賓語の関係からは意味に到達できない。

但し、“他们俩倒挺合适，你给说说怎么样？”“给他说着个人呢，不知能不能成。”のように“媒”などの賓語がないと、“说”および文の意味はやはりむずかしくなる。文中で理解を助ける語句は“媒”などのほかには、“成”“说成”（他们两家说成了。）“说定”（这门亲事说定了。）などがあるが、仲人行為の“说”の理解にはこうした使用の周囲にある語句を併せて知っている必要がある。

次の例が分かりにくいのは、主語“他那个对象”と動詞“说”の意味関係が理解しにくいことと“说”の動作主体が文に現れていないためであろう。この例においては、“说”の動作主体は発言者であり、文の主語は結婚当事者である。

(70) 他那个对象说了一年多了，都快结婚了。

結婚の形式、結婚と仲人の関係などは伝統的な慣習と結びついている。“说媒”類以外にも、“红娘”“相亲”“提亲”など多くの関連する表現がある。結婚に関する“说”はこうした表現形式の1つとして説明し、理解する必要がある。

【注】

- 1) R.ヤーコブソン (1973) は「知らない言語を解く言語学者の立場」を「暗号解読者」に喩えている。その言語を知っている受信者は「コードによってメッセージを

理解する」が、暗号解読者は「メッセージからコードを引き出そうとする」。外国語の学習者の立場は暗号解読者の立場と同じである。

- 2) 「状況のコンテキスト」という概念、その構成要素などについては、M.A.K.ハリデー (1991) に詳細な記述がある。
- 3) “旧时指说合；介绍”の“旧时”は、この意味・用法が歴史的・伝統的な流れの中にあることを指して付け加えたものであろう。この用法は今日使われないというわけではない (本文5章参照)。
- 4) 《現代汉语同义词词典》は、動詞“说”“讲”“谈”“道”“叙”に共通する意義素は“表示用口舌发出言辞向人表示意思”であると説明している。これは“用话来表达意思”と基本的に同じ説明である。
- 5) R. ハリデーはテキストについて、次のように定義する。本稿の「テキスト」もこの定義に従う。

テキストとはいったい何であるのか。最も簡単に言えば、たぶんそれは機能的な言語ということになるであろう。「機能的」(functional) というのは、あるコンテキストにおいてなんらかの働きをする言語という意味で、それは私が黒板に書く孤立した語や文に対立するものである。〜〜状況のコンテキストにおいて働いている生きた言語例であれば、それをわれわれはテキストと呼ぶことにする。それは話されたものでも書かれたものでもよく、その他どのような表現メディアのものであってもよい。(『機能文法のすすめ』)

- 6) 张觉《现代汉语规范指南》に、文章記号の使用規則が守られていないことについて、次の指摘がある。

如今图书、报刊上的标点符号错误率远远高于汉字的错误率。(p. 390)

引用には、さまざまな形式が用いられている。引用であることを示す合図を用いることが多いが、何の合図もなく直接引用内容を示す場合もある。次の2つのテキストの下線部分はそのような例である。

(a) “甄丽雅同志，我是来相亲的，不是来打架的，成不成在缘分，但作为一个朋友来相处，总能说几句话吧。多一个朋友多一条路，顺路走来，或许我还能领你走到一个绮丽秀眉的风景区。”(小小说《相亲》)

(b) 陈白露 出了事由我担戴。

王福升 (正希望白露说出这句话) 好，好，好，由您担戴。(油嘴滑舌)

上有电灯，下有地板，这可是您自己说的。(日出)

引用内容の前に“说”“道”などの動詞を使う場合が多いが、動詞を用いず文章記号だけの例もある。

(c) 社会上流传着一句格言：一粒种子可以改变世界。”（小小说《相亲》）

引用には“说”“道”以外の動詞、“是”“听说”および発話行為を表す動詞も使われる。

(d) 现在社会上有许多民谣，你大概也听过不少。有一句话是：男人有钱就变坏，女人变坏就有钱。（来来往往）

(e) 妹妹巧玲正上高中，听说是现在中学里的“校花”。（人生）

(f) 老安批评：怎么能这么说呢，怎么能这么消极呢？（说说）

(g) “你他妈的少费话。”我骂他。（空中小姐）

- 7) J.V.ネウストプニーは、コミュニケーション行動を考察する上で、人間の行動を「コミュニケーション行動」と「実質行動 (substantive behavior)」に分けて考える。「実質行動」には、「コミュニケーション行動」以外の日常生活で食べたり寝たり、歩いたり車に乗ったりすること、また経済活動（仕事など）、政治、社会、あるいは文化活動を行うことなどが含まれる。
- 8) J.V.ネウストプニーは、コミュニケーション行動を文法（発音と語彙を含む）と文法外のコミュニケーション能力に分け、後者の立場を強調する。学習者に必要な「文法外のコミュニケーション行動」の知識を具体的に八つ挙げる。その第1が「点火のルール」（コミュニケーションの開始）である。
- 9) “讲”は発言相手が、文脈や場面から明確であっても、“对（跟、向、给）××讲”の形で発言相手を表現する。用法辞典の挙げる文例もすべてそのような形である。卢福波に“讲”在用话语表达内容时，有强调“向他人”的方式，使用时要有一定场合”の指摘がある（《对外汉语常用词语对比例释》）。
- 10) 相互動詞については、陶红印《相互动词及相互动词句》参照。
- 11) 但し、文例“媒人把男方说得可好了，但一见面，根本就不是那么回事。”の“说”はこの語義に該当するかは疑問。

【用例語料】

中国社会科学院语言研究所《现代汉语词典 第5版》，商务印书馆，2005年

李忆民主编《现代汉语常用词用法词典》，北京语言学院出版社，1995年

孟琮、郑怀德、孟庆海、蔡文兰编《汉语动词用法词典》，商务印书馆，1999年

- 吕叔湘主编《现代汉语八百词(增订本)》，商务印书馆，1999年
卢福波《对外汉语常用词语对比例释》，北京语言文化大学出版社，2000年
吴晓露主编《说汉语谈文化》，北京语言文化大学出版社，1994年
林宝卿《汉语与中国文化》，科学出版社，2000年
沈锡伦《中国传统文化和语言》，上海教育出版社，1995年
杨晓敏、郭昕、冠云峰选编《2005中国年度小小说》，漓江出版社，2006年
池莉《来来往往》(《池莉文集》)，江苏文艺出版社，1998年
路遥《人生》，经济日报出版社，1997年
老舍《骆驼祥子》(《老舍小说全集》)，长江文艺出版社，1993年
王朔《空中小姐》(《王朔文集2》)，华艺出版社
彭见明《说说》(《那山那人那狗》)，中国青年出版社，2004年
鲁迅《呐喊》(《鲁迅选集·小说散文卷》)，山东文艺出版社，1991年
曹禺《日出》(《曹禺全集》)，花山文艺出版社，1996年
老舍《茶馆》(《老舍剧作全集》)，中国戏剧出版社，1982年

【参照文献】

- R.ヤーコブソン・川本監訳(1973),「人類学者・言語学会議の成果」(『一般言語学』),
みすず書房
M.A.K.ハリデー・R.ハッサン著・笈訳(1991),『機能文法のすすめ』,大修館書店
刘叔新主编(2004),《现代汉语同义词词典(第三版)》,南开大学出版社
J.V.ネウストプニー(1982),『外国人とのコミュニケーション』,岩波書店
张觉(2002),《现代汉语规范指南》,汉语大词典出版社
陶红印(1987),相互动词及相互动词句(中国社会科学院语言研究所《句型和动词》语
言出版社,1987)
田中春美編(1988),『現代言語学辞典』,成美堂